
勇者と七つの紋章

S

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

勇者と七つの紋章

【Zマーク】

Z2737D

【作者名】

S

【あらすじ】

少年ロイは叔父の倉庫で一冊の本を見つける。その本により、彼の運命は大きく変化する。紋章争奪戦が今ここに始まる。

勇者と七つの紋章

昔、この世界には七つの紋章があると言われていた。
世界中に散った、七つの紋章を集めし者は、絶大の力と永遠の命を
授けられた。

この物語は、そんな七つの紋章と一人の少年、ロイの物語である。

ロイは、叔父の倉庫で探し物をしていた。

「あれ？ないな」

その時、ロイの手に赤い一冊の本が手に入った。

「なんだこれ？」

ロイはその本を持ち出した。

そして、誰にもばれないよう、森の中に入つて行つた。

ロイはその本を読むことにした。

「なんだこの字、全然読めないよ」

その本、見たこともないような字で書かれていた。

ロイが本を読んでいると、一つの紙切れが本に挟まれていた。

「これは...」

その紙切れには地図が書いてあった。

しかし、それはどこにもない地形の地図だった。

ロイは門限が迫っていたので、家に帰った。

ロイはは「の本を誰にも取られないので、自分のベッドの下に隠した。

次の日、ロイは本があるかベッドの下を覗いた。

「あれ？」

ベッドの下に本は無かった。

「ビニリットんだろ？」「

何かの気配を感じて、ロイは窓から裏庭を見た。

「あつ、あつた、でも何で？」

ロイは、お母さんに聞いてみた。

「お母さん、この赤い本、僕のベッドから持ち出した？」

ロイの母さんは、不思議そうに答えた。

「何言つてるのロイ、本なんか無いじゃない、熱もあるさじやない

い

ロイは驚いた。

その夜、ロイは本がどこにも行かないようにじつかりと抱えて寝ていた。

すると、突然、本が黄金に輝き始めた。

「なつ、なんだ！！」

ロイは、急な出来事に目が覚めた。

「うひちおいで、ロイ

ロイは不思議な声を耳にした。

「さあ、その本を持ってこひち」

声は裏庭の森の方向から聞こえてきた。

ロイは、本を持って森の奥に向かって駆け出した。

「これはいったい？」

そこには、森をよく知るロイでも知らない洞窟があった。

「うひち」

声は洞窟の中から聞こえてきた。

ロイは、何かに取りつかれたように洞窟に入つて行つた。

まっすぐと続く果てしない洞窟を歩いてみると出口の光が見えてきた。

「出口だ」

ロイは出口に向かって走り始めた。

壮大な運命を知らずに…。

勇者とのひつの紋章 第2話

ロイは、出口から出ると、不思議な光景を目にする。

「なんだこれは…！」

そこには、見たこともない世界が広がっていた。

「うわー、すっげー、こんなの、初めて見た！」

さらには、物が、ロイの目に飛び込んできた。

それは、天空に伸び続けている塔だった。

ロイは、今が夜といつとも忘れ、塔に向かって歩き始めた。

すると、一人の人間が現れた。

「おまえ、Hンデバーの者か？」

「Hンデバー？」

「まいい、その見た目、ダークネスではないことは確かだ、今すぐ死んでもらおう！」

ロイは、その人間からの殺氣を感じてだんだんに怖くなってきて、その場から逃げだした。

「待て」

その人間も追つてきた。

洞窟だ、洞窟まで逃げつ切つたらいい、そんな考えを持ちながらロイは逃げた。

しかし、洞窟はなかつた。

「なんで、何でないんだよ」

ロイは、激しく壁を叩いた。

「やつと、追い詰めたぞ」

「いや、殺さないで」

その人間は、剣を振りかざした、その時

「光の閃光、ホーリーアロウ」

ロイは、目を開けた。

そこには、矢が刺さつた、あの<人間>がいた。

「H、エンデバーか、これで仕留めたと思つなよ」

その人間は、暗黒の夜空に飛び立つていった。

「大丈夫か」

口に、奇麗な女性が話しかけてきた。

「大丈夫」

ロイは、あることに気がついた。

一本、一本がない」

—
本?
—

— そりたよ。赤い本たよ。

ハノハセトトコトニシテ

お嬢様は、奇麗な女性三人を呼び出した

「おはなし」

口1た置くと

この子は、シャーリーンと一緒に乗って

口にはシャオ川リンに乗った

そして本部に向かへ途中
ロイに

あなたの名前は「」

「私は、レイラ、あなたは？」

「僕はロイ、後、ひとつ聞いてもいいかな？」

「何？」

「エンジニアって？」

「そのことも、本部で聞くといいは

「うん、わかった」

そして本部に着くと、一人の年老いた人が迎えてくれた
ロイは、その人に連れられて、大広間に向かった

そこでロイは恐ろしいことを聞いたのであつた
恐ろしいこととはいつたい

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2737d/>

勇者と七つの紋章

2011年1月7日02時14分発行